

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

滴剤型緩下剤・大腸検査前処置用下剤
ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」
 緩下剤
ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」
ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」
Sodium Picosulfate

剤形	内用液 0.75%：液剤 錠 2.5mg：フィルムコーティング錠 ドライシロップ 1%：ドライシロップ
製剤の規制区分	なし
規格・含量	ピコスルファートナトリウム水和物を以下の量、含有する。 内用液 0.75%：1mL 中 7.5mg 含有 錠 2.5mg：1錠中 2.5mg 含有 ドライシロップ 1%：1g 中 10mg 含有
一般名	和名：ピコスルファートナトリウム水和物 洋名：Sodium Picosulfate Hydrate
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	承認年月日：2013年 2月 15日 薬価基準収載：2013年 6月 21日 発売年月日：2013年 6月 21日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日医工株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ http://www.nichiiko.co.jp/

本IFは2013年6月作成（第1版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<http://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IFの発行】

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VI. 薬効薬理に関する項目	14
1. 開発の経緯.....	1	1. 薬理学的に関連のある化合物又は化合物群	14
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 薬理作用	14
II. 名称に関する項目	2	VII. 薬物動態に関する項目	15
1. 販売名	2	1. 血中濃度の推移・測定法.....	15
2. 一般名	2	2. 薬物速度論的パラメータ	15
3. 構造式又は示性式	2	3. 吸収	15
4. 分子式及び分子量	2	4. 分布	15
5. 化学名（命名法）	2	5. 代謝	16
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2	6. 排泄	16
7. CAS 登録番号	2	7. トランスポーターに関する情報.....	16
III. 有効成分に関する項目	3	8. 透析等による除去率.....	16
1. 物理化学的性質	3	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	17
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	1. 警告内容とその理由	17
3. 有効成分の確認試験法.....	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） ...	17
4. 有効成分の定量法	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	17
IV. 製剤に関する項目	4	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	17
1. 剤形.....	4	5. 慎重投与内容とその理由.....	17
2. 製剤の組成.....	4	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	17
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意.....	5	7. 相互作用	18
4. 製剤の各種条件下における安定性 ¹⁾	5	8. 副作用.....	18
5. 調製法及び溶解後の安定性	8	9. 高齢者への投与	19
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	8	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与.....	19
7. 溶出性.....	9	11. 小児等への投与	19
8. 生物学的試験法	11	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	19
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	11	13. 過量投与	19
10. 製剤中の有効成分の定量法	11	14. 適用上の注意.....	19
11. 力価.....	11	15. その他の注意.....	19
12. 混入する可能性のある夾雑物.....	11	16. その他.....	19
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報.....	11	IX. 非臨床試験に関する項目	20
14. その他.....	11	1. 薬理試験	20
V. 治療に関する項目	12	2. 毒性試験	20
1. 効能又は効果	12	X. 管理的事項に関する項目	21
2. 用法及び用量	12	1. 規制区分	21
3. 臨床成績	13		

2. 有効期間又は使用期限.....	21
3. 貯法・保存条件	21
4. 薬剤取扱い上の注意点.....	21
5. 承認条件等.....	21
6. 包装.....	21
7. 容器の材質.....	21
8. 同一成分・同効薬.....	21
9. 国際誕生年月日	22
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	22
11. 薬価基準収載年月日	22
12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容.....	23
13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容.....	23
14. 再審査期間.....	23
15. 投与期間制限医薬品に関する情報	23
16. 各種コード.....	23
17. 保険給付上の注意.....	23
X I. 文献	24
1. 引用文献	24
2. その他の参考文献.....	24
X II. 参考資料	24
1. 主な外国での発売状況.....	24
2. 海外における臨床支援情報	24
X III. 備考	24
付表 1—1	25
付表 1—2	26
付表 1—3	27

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤は、ピコスルファートナトリウム水和物を有効成分とする緩下剤である。

- ・「ベルベロン液」は、マルコ製薬株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、1991年1月18日に承認、1992年7月10日に上市した。（薬発第698号（昭和55年5月30日）に基づき承認申請）
- ・「アペリール錠2.5」及び「アペリールドライシロップ」は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、「アペリール錠2.5」は1996年2月20日に承認を取得、又「アペリールドライシロップ」は1996年3月14日に承認を取得し、両製剤を1996年7月5日に上市した。（薬発第698号（昭和55年5月30日）に基づき承認申請）

[内用液 0.75%]

「ベルベロン液」は、1993年5月7日付で「手術前における腸管内容物の排除」、2003年9月11日付で「大腸検査（X線・内視鏡）前処置における腸管内容物の排除」の効能・効果が追加された。

2004年12月1日より日医工株式会社から販売する運びとなった。2009年6月1日に、マルコ製薬株式会社は、社名を日医工ファーマ株式会社に変更した。2012年6月1日に、日医工ファーマ株式会社は日医工株式会社に合併され、製造販売が日医工株式会社に承継された。

[ドライシロップ 1%]

「アペリールドライシロップ」は、2006年6月28日付で、「手術前における腸管内容物の排除」、「大腸検査（X線・内視鏡）前処置における腸管内容物の排除」の効能・効果が追加された。

その後、医療事故防止のため、以下の販売名変更を行った。

承認年月日	販売名	旧販売名
2007年3月22日	ベルベロン内用液 0.75%	ベルベロン液
2013年2月15日	ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」	ベルベロン内用液 0.75%
2007年2月28日	アペリールドライシロップ 1%	アペリールドライシロップ
2013年2月15日	ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」 ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」	アペリール錠 2.5 アペリールドライシロップ 1%

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は、ピコスルファートナトリウム水和物を有効成分とする緩下剤である。
- (2) 錠 2.5mg の PTP シートはピッチコントロールを行い、1錠ごとに成分名、含量を表示した。
- (3) 重大な副作用（頻度不明）として、内用液 0.75%・ドライシロップ 1%において大腸検査前処置に用いた場合、腸閉塞、腸管穿孔、虚血性大腸炎が報告されている。錠 2.5mg においては、副作用（頻度不明）として、消化器、皮膚、肝臓の副作用が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」

ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」

ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」

(2) 洋名

Sodium Picosulfate

(3) 名称の由来

一般名より

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

ピコスルファートナトリウム水和物 (JAN)

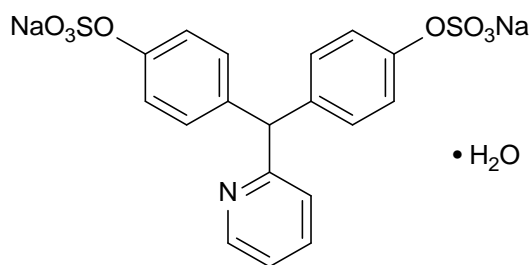
(2) 洋名 (命名法)

Sodium Picosulfate Hydrate (JAN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : C₁₈H₁₃NNa₂O₈S₂ · H₂O

分子量 : 499.42

5. 化学名 (命名法)

Disodium 4,4'-(pyridin-2-ylmethylene)bis(phenyl sulfate) monohydrate (IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

特になし

7. CAS 登録番号

10040-45-6 (無水物)

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末で、におい及び味はない。

(2) 溶解性

水に極めて溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール（99.5）に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点），沸点，凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

吸光度： $E_{1\text{cm}}^{1\%}$ （263nm）：120～130（脱水物換算，4mg，水，100mL）

本品1.0gを水20mLに溶かした液のpHは7.4～9.4である。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

本品は光により徐々に着色する。

3. 有効成分の確認試験法

(1) 呈色反応

本品に1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼンを加えて加熱融解する。冷後，水酸化カリウム・エタノール試液を加えるとき，液はだいたい赤色を呈する。

(2) 沈殿反応

本品に塩酸を加え煮沸し，冷後，塩化バリウム試液を加えるとき，白色の沈殿を生じる。

(3) 紫外可視吸光度測定法

本品の水溶液につき吸収スペクトルを測定し，本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき，両者のスペクトルは同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

(4) 赤外吸収スペクトル測定法

本品につき臭化カリウム錠剤法により試験を行い，本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき，両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

(5) 定性反応

本品の水溶液はナトリウム塩の定性反応を呈する。

4. 有効成分の定量法

電位差滴定法

本品にメタノール及び酢酸を加え，過塩素酸で滴定する。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別, 外観及び性状

販売名	色調 剤形	形 状			本体コード 包装コード
		質量(mg)	直径(mm)	厚さ(mm)	
ピコスルファートナトリウム 内用液 0.75%「日医工」	無色～微黄色の澄明な液でわずかに粘性があり、においはなく、甘味を有する。				—
ピコスルファートナトリウム 錠 2.5mg「日医工」	白色のフィルムコーティング錠	92	6.1	3.1	本体： n 111 包装： n 111
ピコスルファートナトリウム ドライシロップ 1%「日医工」	白色のドライシロップで、においはなく、味は甘い。				—

(2) 製剤の物性

(「IV-4.製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

(3) 識別コード

(「IV-1.(1)剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

(4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」 pH : 5.0~7.5

2. 製剤の組成

(1) 有効成分 (活性成分) の含量

内用液 0.75%	1mL 中ピコスルファートナトリウム水和物 7.5mg 含有
錠 2.5mg	1錠中ピコスルファートナトリウム水和物 2.5mg 含有
ドライシロップ 1%	1g 中ピコスルファートナトリウム水和物 10mg 含有

(2) 添加物

ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」

添加目的	添加物
矯 味 剤	D-ソルビトール
防 腐 剤	パラオキシ安息香酸メチル
pH 調節剤	pH 調節剤

ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」

添加目的	添加物
賦 形 剤	乳糖, ヒドロキシプロピルスターチ, メタケイ酸アルミン酸マグネシウム
結 合 剤	ヒドロキシプロピルセルロース
滑 沢 剤	ステアリン酸マグネシウム
コーティング剤	ヒプロメロース, マクロゴール, 酸化チタン, タルク
光沢化剤	カルナウバロウ

ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」

添加目的	添加物
賦 形 剤	白糖
結 合 剤	グリセリン

(3) その他

該当記載事項なし

3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

(1) 加速試験

本品につき加速試験（40℃，75%RH，6 ヶ月）を行った結果，ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」，ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」及びピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

◇ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」加速試験 [白色のポリエチレン瓶]

測定項目	ロット番号	保存期間			
		開始時	2 ヶ月	4 ヶ月	6 ヶ月
性状 <無色～微黄色の澄明な液でわずかに粘性があり，においはなく，甘味を有する>	BR-1 BR-2 BR-3	適合	同左	同左	同左
確認試験 (沈殿反応，紫外可視吸光度測定法，薄層クロマトグラフィー)	BR-1 BR-2 BR-3	適合	—	—	適合
pH <5.0～7.5>	BR-1 BR-2 BR-3	6.72～6.73 6.75～6.76 6.72～6.75	6.72～6.73 6.74～6.75 6.73～6.74	6.71～6.72 6.75～6.76 6.73～6.74	6.70～6.74 6.75～6.75 6.72～6.73
比重 <1.15～1.17>	BR-1 BR-2 BR-3	1.156～1.158	—	—	1.157～1.158
含量 (%) ※ <93.0～107.0%>	BR-1 BR-2 BR-3	98.03 98.21 98.28	98.23 97.49 97.34	98.09 97.24 97.20	99.35 100.31 100.60

※：表示量に対する含有率 (%)

◇ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」加速試験 [最終包装形態 (PTP 包装)]

測定項目	ロット番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <白色のフィルムコーティング錠>	SPSN1 SPSN2 SPSN3	適合	同左	同左	同左
確認試験 (沈殿反応，紫外可視吸光度測定法，薄層クロマトグラフィー)	SPSN1 SPSN2 SPSN3	適合	同左	同左	同左
崩壊試験 (分) <60 分以内>	SPSN1 SPSN2 SPSN3	適合	同左	同左	同左
含量 (%) ※ <90～110%>	SPSN1 SPSN2 SPSN3	101.1～101.9 99.8～100.8 101.5～102.0	100.5～101.5 99.5～101.3 101.3～101.4	99.6～100.5 98.9～ 99.7 100.0～100.7	99.7～100.4 98.7～ 99.8 100.1～100.5

※：表示量に対する含有率 (%)

◇ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (バラ包装)]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <白色のフィルムコーティング錠>	SPSN1 SPSN2 SPSN3	適合	同左	同左	同左
確認試験 (沈殿反応, 紫外可視吸光度測定法, 薄層クロマトグラフィー)	SPSN1 SPSN2 SPSN3	適合	同左	同左	同左
崩壊試験 (分) <60 分以内>	SPSN1 SPSN2 SPSN3	適合	同左	同左	同左
含量 (%) ※ <90~110%>	SPSN1 SPSN2 SPSN3	101.1~101.5 99.5~100.9 100.9~101.9	100.9~101.5 99.6~101.0 101.0~101.4	99.7~100.5 98.6~100.1 100.5~100.8	99.8~100.5 98.5~ 99.0 99.6~101.3

※: 表示量に対する含有率 (%)

◇ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (分包)]

測定項目	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <白色の粒状のドライシロップで, においはなく, 味は甘い。>	BN0101 GN0101 JN1401	適合	同左	同左	同左
確認試験 (沈殿反応, 紫外可視吸光度測定法, 薄層クロマトグラフィー)	BN0101 GN0101 JN1401	適合	—	—	適合
粒度試験 <10 号(1700 μ m)全量通過 12 号(1400 μ m)残留 5%以下 42 号(355 μ m)通過量 15%以下>	BN0101 GN0101 JN1401	適合 適合 適合	—	—	— 適合 適合
溶出性 (%) <15 分 85%以上>	BN0101 GN0101 JN1401	102.0~102.7 102.9~104.5 100.7~102.6	101.9~103.6 102.0~102.9 101.5~102.3	101.4~102.5 102.1~102.8 101.6~102.9	101.4~102.5 102.4~103.8 101.2~102.9
含量 (%) ※ <95~105%>	BN0101 GN0101 JN1401	101.1 100.8 99.5	101.5 100.6 100.6	101.6 100.9 100.9	101.8 100.9 99.8

※: 表示量に対する含有率 (%)

◇ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」

加速試験 [最終包装形態 (バラ包装)]

測定項目	ロット番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性状 <白色の粒状のドライシロップで、 においはなく、味は甘い。>	BN0102 GN0102 JN1402	適合	同左	同左	同左
確認試験 (沈殿反応、紫外可視吸光度測定法、 薄層クロマトグラフィー)	BN0102 GN0102 JN1402	適合 適合 適合	—	—	— 適合 適合
粒度試験 <10号(1700 μ m)全量通過 12号(1400 μ m)残留5%以下 42号(355 μ m)通過量15%以下>	BN0102 GN0102 JN1402	適合 適合 適合	—	—	— 適合 適合
溶出性 (%) <15分 85%以上>	BN0102 GN0102 JN1402	101.7~102.7 102.9~104.5 100.7~102.6	101.6~102.4 101.3~102.3 100.6~101.9	101.5~102.1 101.6~102.4 100.6~101.8	101.2~102.5 100.0~101.1 100.1~100.5
含量 (%) ※ <95~105%>	BN0102 GN0102 JN1402	101.4 100.8 99.5	101.4 99.3 99.5	101.2 100.9 99.7	101.7 100.3 98.7

※：表示量に対する含有率 (%)

(3) 無包装の安定性試験

◇ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目<規格>	ロット番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色のフィルムコーティング錠>	BU16C1	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15分, 80%以上>	BU16C1	82.8~101.5	85.3~92.9	84.8~102.0	80.5~95.8
含量 (%) ※ <90~110%>	BU16C1	101.1	101.1	101.4	101.1
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	BU16C1	48	46	50	48

※：表示量に対する含有率 (%)

◇ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目<規格>	ロット番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色のフィルムコーティング錠>	BU16C1	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15分, 80%以上>	BU16C1	82.8~101.5	56.7~84.2 (規格外) ※2	51.3~74.8 (規格外) ※3	49.2~55.2 (規格外) ※3
含量 (%) ※1 <90~110%>	BU16C1	101.1	101.1	101.0	100.8
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	BU16C1	48	36	39	38

※1：表示量に対する含有率 (%) ※2：5/6 錠不適合のため規格を逸脱した。 ※3：6/6 錠不適合のため規格を逸脱した。
変化あり：太字

◇ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」 無包装 室温, 曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目<規格>	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <白色のフィルムコーティング錠>	BU16C1	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <15 分, 80%以上>	BU16C1	82.8~101.5	85.2~96.9	86.5~92.4	89.5~100.4
含量 (%) ※ <90~110%>	BU16C1	101.1	101.8	101.6	101.6
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	BU16C1	48	55	57	53

※：表示量に対する含有率 (%)

本試験は、「(社) 日本病院薬剤師会：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について (答申), 平成 11 年 8 月 20 日」を参考に評価した。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)

該当しない

7. 溶出性

(1) 溶出規格

ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」及びピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められたピコスルファートナトリウム水和物（錠剤，ドライシロップ）の溶出規格に適合していることが確認されている。（試験液に水 900mL を用い，溶出試験法第2法により，50rpm で試験を行う。）

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
錠剤 (2.5mg)	15 分	80%以上
ドライシロップ (10mg/g)	15 分	85%以上

(2) 溶出試験²⁾

<ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成 13 年 5 月 31 日 医薬審発第 786 号）

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

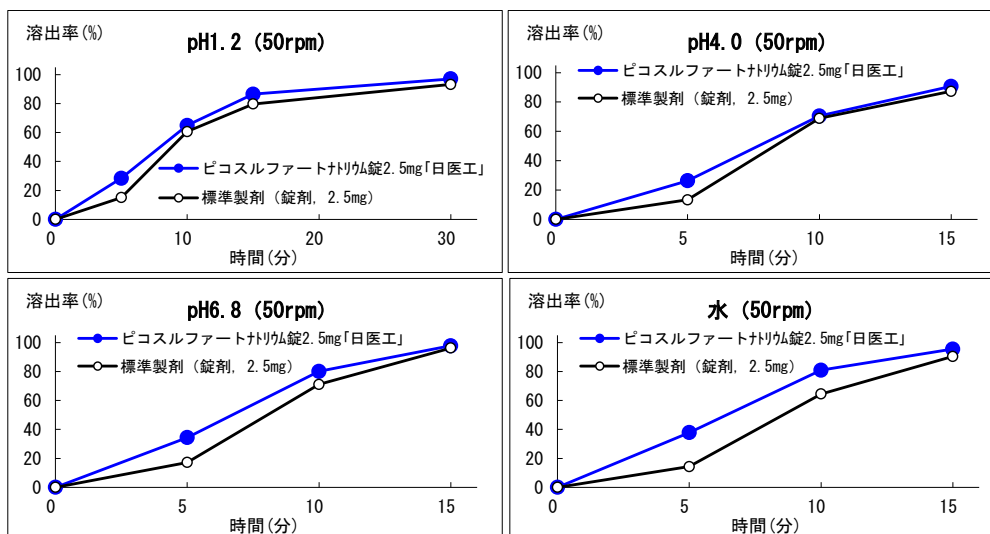
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH4.0, pH6.8, 水)

[判定]

- ・ pH1.2 (50rpm) では，標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85%付近の 2 時点において，本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ pH4.0 (50rpm) では，標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ pH6.8 (50rpm) では，標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ 水 (50rpm) では，標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上，本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果，全ての試験液において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=6)

<ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成 13 年 5 月 31 日 医薬審発第 786 号）

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

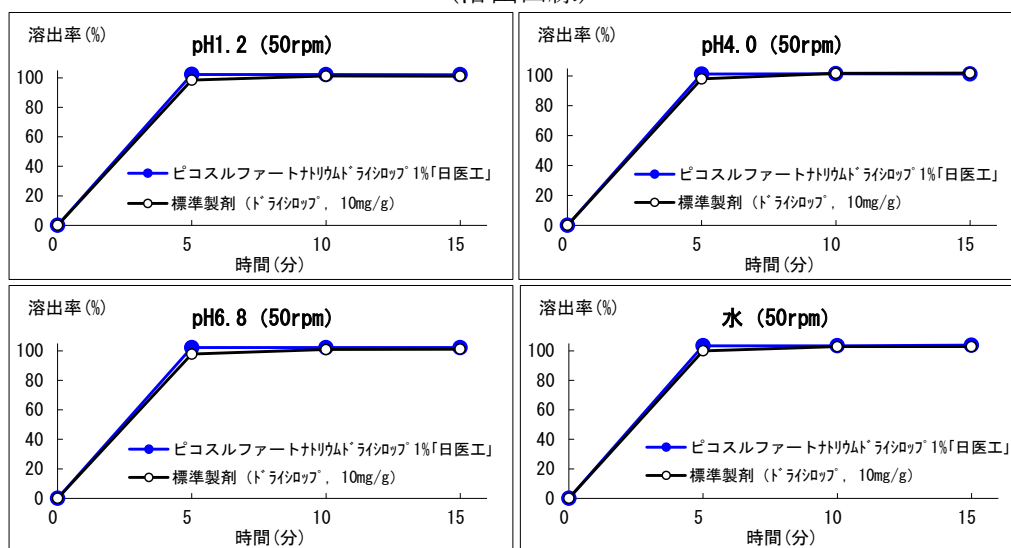
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH4.0, pH6.8, 水)

[判定]

- ・ pH1.2 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ pH4.0 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ 水 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての試験液において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=6)

8. 生物学的試験法

該当資料なし

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

(1) 沈殿反応

本品又は本品の粉砕物に水又はエタノールを加えろ過・遠心分離して得た残留物に塩酸を加え煮沸し、冷後、塩化バリウム試液を加えるとき、白色の沈殿を生じる。

(2) 紫外可視吸光度測定法

本品に水、クロロホルムを加え遠心分離して得られた水層又は本品の粉砕物に水を加えろ過したろ液につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長262～264nmに吸収の極大を、波長268～270nmに吸収の肩を示す。

(3) 薄層クロマトグラフィー

試料溶液及び標準溶液から得た主スポットの R_f 値は等しい。

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

2. 用法及び用量

販売名	効能・効果	用法・用量												
ピコスルファートナトリウム内用液 0.75% 「日医工」	各種便秘症	通常，成人に対して 1 日 1 回 10～15 滴 (0.67～1.0mL) を経口投与する。 小児に対しては，1日1回，次の基準で経口投与する。 <table border="1"> <tr> <td>年齢 用量</td> <td>6 ヶ月 以下</td> <td>7～12 ヵ月</td> <td>1～3 才</td> <td>4～6 才</td> <td>7～15 才</td> </tr> <tr> <td>滴数 (mL)</td> <td>2 (0.13)</td> <td>3 (0.20)</td> <td>6 (0.40)</td> <td>7 (0.46)</td> <td>10 (0.67)</td> </tr> </table>	年齢 用量	6 ヶ月 以下	7～12 ヵ月	1～3 才	4～6 才	7～15 才	滴数 (mL)	2 (0.13)	3 (0.20)	6 (0.40)	7 (0.46)	10 (0.67)
	年齢 用量	6 ヶ月 以下	7～12 ヵ月	1～3 才	4～6 才	7～15 才								
	滴数 (mL)	2 (0.13)	3 (0.20)	6 (0.40)	7 (0.46)	10 (0.67)								
	術後排便補助	通常，成人に対して 1 日 1 回 10～15 滴 (0.67～1.0mL) を経口投与する。												
	造影剤 (硫酸バリウム) 投与後の排便促進	通常，成人に対して 6～15 滴 (0.40～1.0mL) を経口投与する。												
手術前における腸管内容物の排除	通常，成人に対して 14 滴 (0.93mL) を経口投与する。													
大腸検査 (X 線・内視鏡) 前処置における腸管内容物の排除	通常，成人に対して検査予定時間の 10～15 時間前に 20mL を経口投与する。													
ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」	各種便秘症	通常，成人に対して 1 日 1 回 2～3 錠を経口投与する。 7～15 才の小児に対しては，1 日 1 回 2 錠を経口投与する。												
	術後排便補助，造影剤 (硫酸バリウム) 投与後の排便促進	通常，成人に対して 1 日 1 回 2～3 錠を経口投与する。												
ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」	各種便秘症	通常，成人に対して 1 日 1 回 0.5～0.75g を経口投与する。 小児に対しては，1 日 1 回，次の基準で経口投与する。 <table border="1"> <tr> <td>6 箇月以下</td> <td>7～12 箇月</td> <td>1～3 歳</td> <td>4～6 歳</td> <td>7～15 歳</td> </tr> <tr> <td>0.1g</td> <td>0.15g</td> <td>0.3g</td> <td>0.35g</td> <td>0.5g</td> </tr> </table>	6 箇月以下	7～12 箇月	1～3 歳	4～6 歳	7～15 歳	0.1g	0.15g	0.3g	0.35g	0.5g		
	6 箇月以下	7～12 箇月	1～3 歳	4～6 歳	7～15 歳									
	0.1g	0.15g	0.3g	0.35g	0.5g									
	術後排便補助	通常，成人に対して 1 日 1 回 0.5～0.75g を経口投与する。												
	造影剤 (硫酸バリウム) 投与後の排便促進	通常，成人に対して 0.3～0.75g を経口投与する。												
手術前における腸管内容物の排除	通常，成人に対して 0.7g を経口投与する。													
大腸検査 (X 線・内視鏡) 前処置における腸管内容物の排除	通常，成人に対して検査予定時間の 10～15 時間前に 15g を経口投与する。													

なお，年齢，症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群

ピコソジル

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序³⁾

胃、小腸ではほとんど作用せず、大腸の蠕動運動を亢進させ、緩和な瀉下作用を示す。経口投与後はほとんど吸収されることなく大腸部位にそのまま到達した後、大腸細菌叢由来のアリルスルファターゼにより加水分解されて活性型のジフェノール体を生じ、このジフェノール体が大腸粘膜を刺激し、蠕動運動を亢進させると共に水分吸収を阻害することにより、緩下作用が現れる。また一部吸収されたものはジフェノール体として胆汁中に排泄されるが、やはり大腸部位で局所的に作用すると考えられている。

(2) 薬効を裏付ける試験成績⁴⁾

<内用液 0.75%>

下記の薬効比較試験の結果、ピコスルファートナトリウム内用液0.75%「日医工」と標準製剤（内用液、0.75%）の生物学的同等性が確認された。

1) 小腸輸送能亢進作用

小腸全長に対するcharcoal meal先進部の輸送率の差をt検定により算出した。ピコスルファートナトリウム内用液0.75%「日医工」と標準製剤の輸送率に有意差は認められなかった。（ラットにピコスルファートナトリウム水和物として33.3～75.0mg/kgを経口投与）

2) 瀉下作用

下痢便排出の有無からLitchfield-Wilcoxon法により50%瀉下有効量を算出した。ピコスルファートナトリウム内用液0.75%「日医工」と標準製剤の50%瀉下有効量より両製剤の効力比を求めた結果、有意差は認められなかった。（ラットにピコスルファートナトリウム水和物として0.9～4.7mg/kgを経口投与）

<錠 2.5mg, ドライシロップ 1%>

下記の薬効比較試験の結果、ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」と標準製剤（錠剤、2.5mg）及びピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」と標準製剤（ドライシロップ、10mg/g）の生物学的同等性が確認された。（ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」：ラットにピコスルファートとして 2.5～10mg を胃内投与；n=8～10、ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」：ラットにピコスルファートとして 2.5～10mg/kg を胃内投与；n=10）

1) 腸管蠕動運動亢進作用

累積瀉下効果発現率から 50%瀉下有効量ならびに 95%信頼限界を Litchfield and Wilcoxon 法により算出した。

2) 水分吸収阻害作用

糞便の外観形状の差を Wilcoxon 法により、また、糞便中水分率の差を t 検定により算出した。（ $p < 0.05$ ）

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

(VIII-10.「妊婦，産婦，授乳婦等への投与」の項参照)

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 急性腹症が疑われる患者〔腸管蠕動運動の亢進により、症状が増悪するおそれがある。〕
- (2) 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
＜内溶液 0.75%、ドライシロップ 1%＞
- (3) 腸管に閉塞のある患者又はその疑いのある患者（**大腸検査前処置に用いる場合**）〔腸管蠕動運動の亢進により腸管の閉塞による症状が増悪し、腸管穿孔に至るおそれがある。〕

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

＜内溶液 0.75%、ドライシロップ 1%＞

【慎重投与】（次の患者には慎重に投与すること）

＜大腸検査処置前に用いる場合＞

- (1) 腸管狭窄及び重度な便秘の患者〔腸管蠕動運動の亢進により虚血性大腸炎又は腸閉塞を生じることがある。また、腸閉塞を生じた場合には腸管穿孔に至るおそれがある。〕
- (2) 腸管憩室のある患者〔腸管蠕動運動の亢進により病態が増悪するおそれがある。〕
- (3) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照）

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

＜内溶液 0.75%、ドライシロップ 1%＞

- (1) 本剤を**手術前における腸管内容物の排除**に用いる場合は、**必要に応じて浣腸を併用**すること。
- (2) 本剤を**大腸検査前処置**に用いた場合、腸管蠕動運動の亢進により腸管内圧の上昇を来とし、**虚血性大腸炎**を生じることがある。また、腸管に狭窄のある患者では、**腸閉塞**を生じて**腸管穿孔**に至るおそれがあるので、投与に際しては次の点を留意すること。（「重大な副作用」の項参照）
 - 1) 患者の日常の排便状況を確認し、本剤投与前日あるいは投与前に通常程度の排便があったことを確認してから投与すること。
 - 2) 本剤投与後に腹痛等の異常が認められた場合には、腹部の診察や画像検査（単純 X 線、超音波、CT 等）を行い、適切な処置を行うこと。
 - 3) 自宅で本剤を用いて**大腸検査前処置**を行う際には、副作用があらわれた場合に対応が困難なことがあるので、ひとりでの服用は避けるよう指導すること。
 - 4) 本剤を**大腸検査前処置**に用いる場合は、**水を十分に摂取**させること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

(2) 併用注意とその理由

該当記載事項なし

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

<内溶液 0.75%, ドライシロップ 1%>

1) 腸閉塞, 腸管穿孔

大腸検査前処置に用いた場合, 腸管に狭窄のある患者において腸閉塞を生じ, 腸管穿孔に至るおそれがあるので, 観察を十分に行い, 腹痛等の異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。(「重要な基本的注意」の項参照)

2) 虚血性大腸炎

大腸検査前処置に用いた場合, 虚血性大腸炎があらわれることがあるので, 観察を十分に行い, 異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。(「重要な基本的注意」の項参照)

(3) その他の副作用

<錠 2.5mg>

以下のような副作用があらわれた場合には投与を中止するなど, 適切な処置を行うこと。

	頻度不明
消化器	腹部不快感, 腹痛, 悪心, 嘔吐, 腹鳴, 腹部膨満感, 下痢等
皮膚	蕁麻疹, 発疹等
肝臓	AST(GOT)上昇, ALT(GPT)上昇等

<内溶液 0.75%, ドライシロップ 1%>

以下のような副作用があらわれた場合には投与を中止するなど, 適切な処置を行うこと。

	頻度不明
消化器	腹部不快感, 腹痛, 悪心, 嘔吐, 腹鳴, 腹部膨満感, 下痢等
皮膚	蕁麻疹, 発疹等
肝臓	AST(GOT)上昇, ALT(GPT)上昇等
精神神経系 ^{注)}	めまい, 一過性の意識消失

注: 大腸検査前処置に用いた場合, 排便や腹痛による血管迷走神経反射に伴い症状があらわれることがある。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) **禁忌**：本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
- 2) **その他の副作用**：皮膚（蕁麻疹，発疹等）があらわれた場合には投与を中止するなど，適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には，治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

11. 小児等への投与

該当記載事項なし

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当記載事項なし

13. 過量投与

該当記載事項なし

14. 適用上の注意

<内溶液 0.75%>

投与経路：眼科用（点眼）として使用しないこと。

<錠 2.5mg>

薬剤交付時：PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。

〔PTP シートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕

15. その他の注意

該当記載事項なし

16. その他

<内溶液 0.75%>

【容器の使用法】

<定量滴下型容器の使用法>

あらかじめ適量の水等を入れた容器に，図の様に容器の胴部分をゆっくりと押し，1滴ずつ滴下させる。

※1mL は約 15 滴に相当する。



IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」 ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」 ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」	なし
有効成分	ピコスルファートナトリウム水和物	なし

2. 有効期間又は使用期限

外箱等に表示の使用期限内に使用すること。（3年：安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

<内用液 0.75%>気密容器で室温保存，遮光保存

<錠 2.5mg，ドライシロップ 1%>室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

（「貯法・保存条件」の項を参照）

(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有り

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目）を参照）

(3) 調剤時の留意点について

該当記載事項なし

5. 承認条件等

なし

6. 包装

ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」	10mL×10本	—
ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」	PTP 100錠（10錠×10） 1000錠（10錠×100）	バラ 1000錠
ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」	分包 0.75g×600包	バラ 100g

7. 容器の材質

ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「日医工」	容器：ポリエチレン製ボトル，ポリエチレン製中栓， ポリエチレン製キャップ
ピコスルファートナトリウム錠 2.5mg「日医工」	PTP：ポリ塩化ビニルフィルム，アルミニウム箔 バラ：ポリエチレンテレフタレート・アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルムの袋
ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%「日医工」	分包：セロファン・ポリエチレンラミネートフィルム バラ：ポリエチレンテレフタレート・アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルムの袋

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ラキソベロン内用液 0.75%，ラキソベロン錠 2.5mg

スナイリンドライシロップ 1%

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

	承認年月日	承認番号
ピコスルファートナトリウム 内用液 0.75%「日医工」	2013年2月15日	22500AMX00528000
ピコスルファートナトリウム 錠 2.5mg「日医工」	2013年2月15日	22500AMX00527000
ピコスルファートナトリウム ドライシロップ 1%「日医工」	2013年2月15日	22500AMX00526000

旧販売名	承認年月日	承認番号
ベルベロン内用液 0.75%	2007年3月22日	21900AMX00786000
ベルベロン液	1991年1月18日	20300AMZ00054000

旧販売名	承認年月日	承認番号
アペリールドライシロップ 1%	2007年2月28日	21900AMX00165000
アペリールドライシロップ	1996年3月14日	(8AM) 269
アペリール錠 2.5	1996年2月20日	(8AM) 137

11. 薬価基準収載年月日

	薬価基準収載年月日
ピコスルファートナトリウム 内用液 0.75%「日医工」	2013年6月21日
ピコスルファートナトリウム 錠 2.5mg「日医工」	2013年6月21日
ピコスルファートナトリウム ドライシロップ 1%「日医工」	2013年6月21日

旧販売名	薬価基準収載年月日
ベルベロン内用液 0.75%	2007年6月15日
ベルベロン液	1992年7月10日

旧販売名	薬価基準収載
アペリールドライシロップ 1%	2007年6月15日
アペリールドライシロップ	1996年7月5日
アペリール錠 2.5	1996年7月5日

12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間制限の対象となる医薬品ではない。

16. 各種コード

	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
ピコスルファートナトリウム 内用液 0.75%「日医工」	2359005S1283	620491703	104917603
ピコスルファートナトリウム 錠 2.5mg「日医工」	2359005F1226	620489401	104894001
ピコスルファートナトリウム ドライシロップ 1%「日医工」	2359005R1117	620490401	104904601

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) 日医工株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 日医工株式会社 社内資料 (溶出試験)
- 3) 第十七改正日本薬局方解説書 C-4072, 廣川書店, (2016)
- 4) 日医工株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験)

2. その他の参考文献

なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

X III. 備考

その他の関連資料

なし

付表 1—1

薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 製造方法並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定及び物理化学的性質等	○	×	×
	2 製造方法	○	△	○
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 副次的薬理・安全性薬理	○	×	×
	3 その他の薬理	△	×	×
ホ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
	6 その他の薬物動態	△	×	×
ヘ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 遺伝毒性	○	×	×
	4 がん原性	△	×	×
	5 生殖発生毒性	○	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 2

医薬発第 481 号（平成 11 年 4 月 8 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・科学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 生殖発生毒性	○	×	×
	4 変異原性	○	×	×
	5 がん原性	△	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 3

薬発第 698 号（昭和 55 年 5 月 30 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・化学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	×
	2 苛酷試験	○	×	×
	3 加速試験	×	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 急性毒性	○	×	×
	2 亜急性毒性	○	×	×
	3 慢性毒性	○	×	×
	4 生殖に及ぼす影響	○	×	×
	5 依存性	△	×	×
	6 抗原性	△	×	×
	7 変異原性	△	×	×
	8 がん原性	△	×	×
	9 局所刺激	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の試験成績に関する資料	臨床試験の試験成績	○	×	○

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される